

平成28年度「ともに生きる条例」について理解する職員研修（第Ⅰ期） アンケート集計結果

	開催日時	参加者数
①	平成28年5月30日 10:00～	43
②	平成28年5月30日 13:30～	40
③	平成28年5月31日 10:00～	36
④	平成28年5月31日 13:30～	37
⑤	平成28年6月2日 10:00～	32
参加者総数		188

1 業務において障がいのある人に対する合理的配慮を行ったことがありますか？

	ある	ない
①	19	24
②	20	20
③	18	17
④	20	15
⑤	16	15
合計	93	91

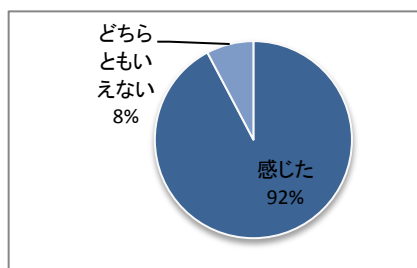
【行った合理的配慮の内容】

- ・施設の新築、改築工事におけるユニバーサルデザインの考慮
- ・移動の際に介助と、動線の確保を行った
- ・施設設置の際に、スロープの設置や手すりの取り付けを行った
- ・スイッチやコンセントの高さを配慮した
- ・書類の代筆や、内容の読み上げ
- ・職員採用試験時に視覚障がいの方へ、問題用紙の拡大及び受験時間の延長
- ・市民対象の講演会の会場選定で、車椅子の方が参加できる場所を選んだ。
- ・聴覚障がいのある方へのメールでの保健指導
- ・車椅子の方への健診会場の説明、健診施設への依頼
- ・車椅子の方が利用しやすいように、課のカウンターの高さを変えた
- ・車椅子に長く座れない方、寝たきりの方などは車まで行って、手続きを行った
- ・音声QRコードを送付文に添付した
- ・障害のある方のペースに合わせて、ゆっくり分かりやすく説明を行った
- ・図などで、わかりやすく説明を行った
- ・ご質問の答えを、口頭プラス持参されたノートに記入して説明を行った
- ・手話の勉強をして、簡単な会話が行えるようにした
- ・聴覚障害の方へ、手話通訳を派遣した

2 本研修は必要と感じるものでしたか？

① 第1セクション 障害福祉課の説明について

	感じた	どちらともいえない	感じなかった
①	40	2	0
②	37	3	0
③	32	1	0
④	32	3	0
⑤	26	5	0
合計	167	14	0



【理由】

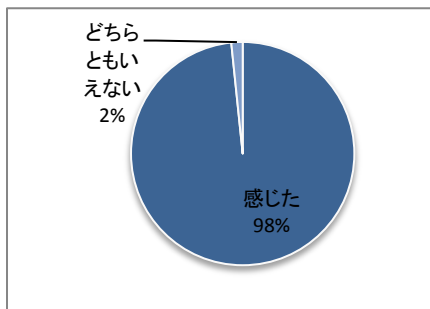
- ・市の施策として、当然必要
- ・業務において、合理的配慮の理解ができていない
- ・知らなければ、配慮する事もできないから
- ・なぜ制定されたかを、理解することが大事
- ・条例の必要性、考え方などの理解を深めることができた
- ・配慮の具体例を知り、実務で工夫できる事に気づいた
- ・日ごろは業務に追われ読む事がなかったので、良い機会だった
- ・障害の種別ごとの配慮として、対応方法の説明があったのが良かった
- ・全職員が、理解しておく必要がある
- ・当たり前に行っていることが障害のある人には困難であるという認識が大事
- ・社会や大多数の人たちが、障害を作っていることがわかった
- ・社会的障壁を取り除くことが大事だと思うから
- ・条例制定の背景や、経過等の確認ができた
- ・理解しているつもりだったが、具体的な例を聞き、より詳しく理解できた

「どちらともいえない」

- ・条例の説明は必要だと思うが、内容を工夫する必要があると思う
- ・流れが速かった
- ・知っている内容だったから
- ・職員が健常者なので目線の違いを感じた。障がい者は手帳があって優遇を受けている点、障がい者間の差や社会的障壁の解消法など具体例が欲しかった

2② 第2セッション 当事者講師団講義について

	感じた	どちらともいえない	感じなかった
①	41	1	0
②	40	0	0
③	35	0	0
④	34	1	0
⑤	30	1	0
合計	180	3	0



【理由】

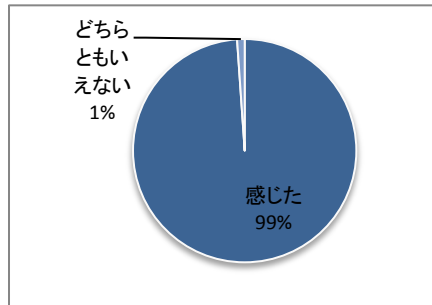
- ・当事者の方の話を聞くことは、今後の災害現場で活動上、必要と思った。
- ・体験談を聞き、障がいの理解不足を感じた。
- ・当事者の話は自分達の想像をはるかに超える。
- ・障がい者の立場になって、言葉の一言も考えること。
- ・実体験談により、些細なことでも不具合及び危険なことになると感じ、目線を変えなければならない。
- ・避難訓練の実体験を聞くことによって、支援の体制、介助等の準備が整っていない現状を知ることができた。
- ・当事者にしか分からないことを教えてもらいたい。
- ・避難所にも気付かないところで、障害がたくさんある。
- ・障がいのある方が何を必要としているのかや過度の介助は不要であること。
- ・合理的配慮がもっと必要と思った。
- ・普段、感じていない障壁が多くあることに気付かされた。
- ・ハード面でもっと配慮しなければならないこと、また、介助する立場としても自分の身の安全の配慮が必要になることも感じた。
- ・今後、イベント等で、声を聞くことが必要となると思った。
- ・協働によるユニバーサルデザインのまちづくりの重要性について理解できた。
- ・困りごとに気付くアンテナを広げるためには、体験談（具体例）を聴くことが一番
- ・当事者の苦労だけでなく、家族の悩みや課題があること。当事者及び周囲の歩みよりが必要ということが分かった。
- ・障がいのある子が自分の親が亡くなった時に一人立ちして生きていく社会を作る必要がある。
- ・支えること、支えられること、自分らしい心を保てること、生の声を聞くことができ、考え深いものがあった。

「どちらともいえない」

- ・他の障がいでの意見を聞きたい

2③ 第3セッション 体験について

	感じた	どちらともいえない	感じなかった
①	42	1	0
②	40	0	0
③	34	0	0
④	34	1	0
⑤	31	0	0
合計	181	2	0



【理由】

- ・当事者を理解するために良い経験となった。
- ・苦勞を体感することができ、障壁について意識できる。
- ・実体験に基づく、合理的配慮の必要性を感じることができた。
- ・自由がきかないことで、恐さが分かった。
- ・体験してみたことは、今後の声かけにつながる。
- ・介助方法（声かけ・誘導）の理解
- ・不安感が強く、冷静さを失った。

【視覚障がいの体験】

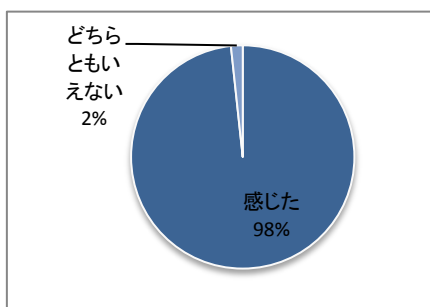
- ・一歩が恐怖で、段差が怖かった。
- ・方向が分からず、不安な思いを感じることができた。
- ・思うのと体験するのでは、かなりギャップがあり、体験して初めて理解できた。
- ・「体験コーナー」として常設してもよいのではと思った。
- ・物の判別などは困難で、字を書くことが大変だった。

【車イスの体験】

- ・少しの段差なのに、乗り越えるのが難しく、もどかしかった。
- ・車イスの操作や段差が難しかった。

2④ 全体をとおして

	感じた	どちらともいえない	感じなかった
①	40	1	0
②	39	1	0
③	33	0	0
④	32	0	0
⑤	30	1	0
合計	174	3	0



【理由】

- ・もう少し合理的配慮の研修は、内容を増やして良いと思う
- ・短時間で、色々なセッションがあり参考になった
- ・問題意識を持つ事ができる、いい機会となった
- ・素晴らしい条例と思った。
- ・事例を聞くことで、問題点が理解できた。
- ・合理的配慮をしようと思ったり、気付きのきっかけになったりした。
- ・研修内容がコンパクトにまとまっており、分かりやすい内容であった。
- ・担当者だけでなく、市職員全体の理解を深める必要がある。
- ・一人一人にあった合理的配慮の必要性を感じる事ができた
- ・市の条例として施行するからには、職員の理解が必要であるから
- ・体験を通じて配慮の方法が増えたと思う
- ・文字で条例を見るだけでは、イメージが湧かなかつたので研修が必要と感じた。
- ・特に当事者の講義が良かった
- ・課題意識を持って、職務に当たることができると感じたから
- ・自分や家族がいつ障がいになるかわからない。サポートできる事を学び活かしたい。
- ・ちょっとした配慮でも、対応できる事があると理解できた為
- ・自分の視野や考え方が固まっていたと自覚した
- ・市の職員としてだけでなく、人として相手を思いやれる社会。思いやりの精神は絶対に必要

【どちらともいえない】

- ・必要だと思うが、1時間ほどにしてもらえると助かる

3 研修会で学んだことを今後の職務にどのように取り入れますか。

- ・障がいの種類により、多種多様な対応を考えないといけない
- ・合理的配慮を正確に理解して、協力できることがあれば積極的にしたい
- ・障がい者の目線になって、考えて、行動する
- ・業務の計画や方針を策定するにあたり、本条例を理解して発言や提案をする職員がいない。だから今日学んだ事を念頭に置き、業務に取り組みたい
- ・まずはソフト面での配慮を当たり前に行えるようになり、職員や家族に体験談を伝えていきたい
- ・舗装業務をしていく中で、障がい者が不自由なく過ごせるように心がけたい
- ・講義を聞き声かけする事の大切さを考えさせられた。今後は積極的に声かけをしたいと思う
- ・施設の設計にあたり、障害のある人に配慮し、意見を聞く事でともに安心して安全に暮らせる市としたい
- ・何気ない一言が障がい者の方を傷つけていることが分かった。今後気をつけたい
- ・障がい者についての施策を考える時は、実際に声を聞いていかなければ、具体的で効果的なものにならないと感じた
- ・災害時に災害弱者である障がい者への、具体的対応について取り組んでいきたい
- ・業務上、障がい者の方と接する機会はないが、普段の生活に取り入れていきたい
- ・ともに生きるという事は、相手の立場に立つという所から始まると思うので、常にその気持ちを持ってサポートしていきたい
- ・車椅子で来られた方が自分で段差が越えられそうか見守り、難しそうであれば声をかけて手伝うようにしたい
- ・市民対象の講演会等で手話等の配慮
- ・障がい当事者とひとくりにせず、1人1人にあった対応を考えていきたい
- ・今まで精神障がい本人の話を(妄想などの訴えは聞かぬ)、聞く事がなかったので良かった。ケースワークや相談対応時、今まで以上に配慮したい
- ・機能障がいだけでは障がいと言わず、合理的配慮がなされない時に障がいという考え方に感銘を受けた
- ・会議や講演会に障がい者が参加しやすいよう、場所・動線など配慮したいと思う
- ・保育職場の中でも配慮の必要な子供、保護者の方が多いです。その人(子)が何に困っているのか、どうしたら生活がしやすく安心して過ごせる場になるのか、自分だけでなく職員全員で考え、話し合っていきたい
- ・窓口のレイアウトや設置位置を考える時に、あらかじめ配慮したものにしておく必要があると思う
- ・手話の講習の参加など、合理的配慮の手段を今後学び、職務に活かして行けたらと思う
- ・市民の方一律に送付・対応するのではなく、色んな事を考えたい
- ・“これぐらいで良いかな”ではなく、“これでも足りないかも”と想像力を働かせ、細やかに配慮したい
- ・視力が弱い人に、黒い線で囲む等の工夫をしたいと思う

4 その他研修全般について、ご意見がありますか

- ・体験等をする事により、見えてくることがあり身をもって覚える必要性を感じた
- ・ハンドマイクを購入してはどうか。パワーポイントの操作も職員がパソコンに張り付かず、ボタン操作(ワイヤレス)で行ってはどうか
- ・ともに生きる条例を成功させたい
- ・河野さんの利用できて機会の均等、という言葉が印象に残りました。逆差別ではないかという声を聞く事がありますが、どんな人も気持ちよく暮らしていけるといいなと思います
- ・実際に色々な場面でバリアフリー等について、意見をされている方の話が聞けてとても勉強になりました。講義だけでなく、体験もあり良かったです
- ・アイマスクは定期的に洗ったほうが良い（におい）
- ・とても必要だと思うので、全職員ゆくゆくは全市民に行なってほしい
- ・実務上で活かせる事例や、解消方法などたくさん紹介していただくと、もっと実践に活かしやすいと思います
- ・体験が最後だと、その印象が強いので先に体験をするのもいいのかも
- ・どうしても時間が経つと忘れてしまう（意識が薄れてしまう）ので、定期的に開催してもらいたい
- ・出来ない事を諦めるのではなく、どうすれば出来るのか考えていきたいと思います。
- ・生涯にわたるサポートが可能になるには何が必要なのか、他の介護・保育問題も含め考えていけたらと思った。家族任せではいけないと私も思います
- ・子供が3歳からメガネをかけていて、目が見えない不安・不便さを感じた
- ・職員全員が受けるべき研修だと実感した。読む・書くだけではわからないことが多い
- ・精神・知的・発達障がい者は見た目では判断しづらいので、その方々への理解が必要だと思いました
- ・必要な研修だと思うので、一般向け（企業単位）にも実施して欲しい
- ・今回の平成28年熊本地震を受けて、本条例に基づいてどのような配慮がなされたのか？
- ・永松さんが一生懸命話してくれていたにもかかわらず、居眠りしている職員がおり(一部ですが) 不快に感じました。市職員のスキルアップや意識改革が必要だと思いました
- ・発達医療センターの方のお話や講義をよく聞く機会があります。今回の大きな地震の際「福祉避難所」を、別府は開いていなかったと聞きました。熊本では大学と連携してチームを作り配慮したと聞きました。私はほっペパーク（保育所）でしたが、小さな乳幼児を抱えた方、オムツ換えや授乳がしやすいまた高齢者にも使いやすいトイレもあり、とても多くの避難者が利用されました。小学校の体育館では難しい、配慮ができるような施設を地震時に開放してほしいと思う。
- ・車椅子のデモで「ああやって声をかけるのか」と分かりやすかった。同じようにもっと見本があれば、分かりやすいと思う
- ・車椅子の難しさが分かった。そして市内の歩道状態の悪さが頭をよぎった。（例）狭い歩道のうえ、その中に桜の木が植わっていて車椅子が通れない等
- ・今まで当事者意見を聞く事がなかったので、貴重なものだった
- ・手話やコミュニケーションの方法、職場等の簡単なバリアフリー化の方法などについて学べる場を設けてほしい。「理解」から「実践」に移るために必要な知識・スキルを向上させる場を設けてほしい
- ・来客者がどのような障害を持っているか、何にまず困るのが見分けるのが難しい。申し出をしてもらえれば有り難いが、こちらから余計な事を言って逆に怒らせるのではないかと不安
- ・「合理的配慮」の意味が理解できないと、条例準備段階からずっと思っていたがようやく分かった気がした
- ・視覚障がいだけでなく、他に困りがある方のお話も聞きたい
- ・別府市役所で行った、合理的配慮の事例紹介が聞きたかった
- ・職場環境そのものについて、まず、実行することも必要ではないか。（障がい者が働きやすい環境ではないと思われるため。）